

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100505		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	共生家みずほの グループホーム		
所在地	宇都宮市 瑞穂2-14-10		
自己評価作成日	令和 4年 12月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和 5年 1月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着事業所として、様々なご利用者様からのニーズに応えられるグループホームです。ご利用者様の一人一人の人格・気持ち・人生を尊重し、いつも温かい愛情と笑顔で、ご利用者様に「喜び」と「生きがい」を感じて頂けるよう接して行きます。ご利用者様や地域住民を含め、安心して暮らせる福祉社会を目指していきます。また、瑞穂野地区には事業所はあまりなく、高齢化社会において必要な事業所なのではないかと思えます。地域福祉の向上に努め、介護が必要になっても住み慣れた土地で暮らしていけることが出来る、地域で愛される施設です。ユニット内はテレビでの歌謡ショーをご覧になったり、毎日音楽に合わせてリズム体操を行っております。レクリエーションでは輪投げ、ボーリングで盛り上がる様子が見られております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市南部の新国道4号線から少し入った戸建住宅やアパート等が立ち並ぶ住宅地に位置し、閑静な環境にある。建物内はグループホーム2ユニットと小規模多機能型事業所が併設されており、1階の事務室では、建物内外の安全管理を遠隔カメラで24時間モニター監視を行っている。職場の雰囲気は上下の風通しが良く、業務に関する意見提案や個人的要望も気軽に責任者と話し合うことができる。法人は、各事業所にCS(顧客満足)ES(従業員満足)の委員を配置し、利用者や職員の意見要望等を積極的に取入れている。職場のICT化(情報通信技術)も進めており、休眠中の利用者の体動、心拍、呼吸、離床を一度に計測できるシステムを導入し、利用者の安全・健康管理のほか、受診時の医療機関との連携に活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共生会の理念である「尊厳・愛情・信頼・安心」を基本に地域密着型サービスの基本である住み慣れた地域での生活を出来るようにする視点から、共生会の理念の一つにある、共に生き、共に育み安心して暮らしていける福祉社会を目指し、関わる全ての方々と信頼関係にも努めている。	理念は、事務所内の目につく場所に掲示して意識づけをしている。職員は毎月のユニット会議や職員会議において振り返り、常に理念を念頭に置き利用者の支援に当たるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で、民生委員や自治会長と地域の行事の情報収集を行っている。また、年に1回「町探検」で地域の小学生が来訪されている。	以前は、地域の祭りや事業所のイベント等で地域交流を図っていたが、コロナ禍でここ3年間は全て自粛となっている。利用者は、事業所周辺の散歩の機会に、近隣の住民と挨拶を交わす程度となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、地域の包括支援センターや事業所周りを行い、法人のPRに努めている。地域の方の相談や緊急の対応も行っており、気軽に相談しやすい雰囲気作りにも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで開催している。事業所の取り組みやサービス状況を報告して出た意見や、アドバイスをサービスの向上に生かしている。包括や民生委員からも地域の情報を収集することが出来ている。	小規模多機能型事業所と合同で会議を開催している。出席者は、地域包括支援センター、民生委員、自治会長、利用者代表及び家族代表と事業所職員である。入居者状況、活動状況、行事予定等を説明し、参加者から質疑・提案等が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、地域包括支援センターとの連携を取り、地域福祉の状況をお聞きしている。当法人の新事業所の案内や事業所の取り組みをお伝えしている。	市の担当者とは、事業所への連絡・通知文書や報告事項等を通して指導・助言等を受けている。わからないことは、その都度連絡し助言を得るなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を通じて、正しい理解を深めている。年に2回の身体拘束廃止に関わる研修(6月と12月に実施、新入社員は入社月に実施)や、3か月に1回の身体拘束廃止の委員会を開催し、常に介助方法の話し合いを持ちながら身体拘束を行わないケアを徹底している。	身体拘束に関する研修は、6月と12月に実施している。3か月に1回開催するリスクマネジメント委員会時に合わせ、身体拘束廃止委員会を行っている。スピーチロック等言葉遣いについては、リーダーがOJTを通して職員を指導し、適切な利用者支援に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいて、虐待に関する事例等の話と説明を行いながら、虐待のない介護を努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて権利擁護に関する制度の理解を深め、必要性のある利用者様については包括支援センターや社会福祉協議会と連携を取りながら、活用出来る様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様に不明点が残らないように十分な説明や話し合いを行い、理解、納得して頂ける様に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来所時やお電話で要望や提案を聞いている。苦情、提案、要望があれば管理者に報告し運営に反映出来ている。月に1回、家族様へ利用者様の写真付きの手紙を郵送し、ご様子をお伝えしている。法人のホームページのブログやSNSを定期的アップし、遠方の家族様でもご様子が分かるようにしている。面会制限がある時には、ズームでの面会も行っている。	家族の意見・要望等は、事業所来訪時や電話連絡時にその都度伺っている。また、毎月、本人写真を同封した手紙や事業所のブログ、SNSを活用して利用者の近況をお知らせし、家族等の意見や要望が出やすい工夫をしている。利用者には日常の介護支援を通して要望等を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議を開催し、職員の意見や提案を述べられる機会を設けている。ユニットリーダー、タウン長との話し合い、職員のメンタルケアを行って職員を支えられる仕組みを取り入れている。	毎月1回ユニット会議時に職員の意見提案等を話合っている。個別の要望はその都度リーダーに相談している。また、CS(顧客満足)・ES(従業員満足)委員会も設置しており、各委員の声から、職員の福利厚生施策等にも反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	明確な職位表を開示し、目標を持って働ける環境にしている。社内交流行事も積極的に企画し、法人での補助も行っている。社員旅行、法人独自のwinwinポイント、積み立てNISAの補助、誕生月には法人からの誕生日プレゼントを用意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を実施している。外部研修も積極的に参加を促しており、新卒、未経験の職員でも安心して働ける様にメンターを置き、新人職員が気軽に質問出来る環境づくりをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者との交流する機会を作り、閉鎖的な施設やマンネリ化とならないように他事業所の取り組みを学ばせてもらったり、常に前向きなモチベーションを得られるように配慮している。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談、契約時、アセスメント、サービス担当者会議を通じて本人の困っていること、不安や要望を可能な限り聞かせて頂き、サービス提供を行う上で良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談、契約時、アセスメント、サービス担当者会議を通じて家族の困っていること、不安や要望を可能な限り聞かせて頂き、サービス提供を行う上で良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学やアセスメントを通して、家族様や利用者様の要望や意向を把握し、必要とされているサービスの提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の身体状況や一人一人の力に応じた作業や家事を一緒に行いながら、共に暮らす「家族」というイメージを持って接するように関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけではなく、家族様にも出来るだけ関わって頂けるように協力して頂き、共に支えていく関係を築いている。面会可能な時期は、家族様の希望に合わせて面会をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を頂きながら、自宅への外出やお墓参りを行っている。また希望があれば、介護タクシーの自費のサービスでの外出も行っている。	コロナ禍のため、行事などの外出は自粛しているが、介護タクシーを利用して入院中の家族への見舞いや、お墓参り等出来るだけ利用者の要望に沿った支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や職員が会話の橋渡しを行いながら、馴染みの関係や信頼関係が持てるように配慮している。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した際には、思い出のお写真を集めたアルバムを家族様にお渡ししている。退居後も利用者様や家族様が気軽に立ち寄れる環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会の中で利用者様と家族様が交わした会話や、ホーム内での会話の中での意向を取り入れている。その意向で取り入れたレクリエーション企画(外出、テイクアウトレク)がある。	日常の利用者支援の中で思いや意向を捉えるようにしている。利用者から多く寄せられる食べ物については、寿司のテイクアウトや大型食品店舗へ買い出しに行き利用者の要望に沿った食べ物を提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや家族様の面会時に聞き取りした内容の把握を努めている。また以前利用した事業所の職員から利用時の様子の聞き取りを行っている。知人、友人が来訪されたときも、会話の中で把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況や有する能力等、アセスメントや日々のケアを通して把握し、反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の細かい点はユニット会議でその都度話し合っている。利用者様ごとに各担当職員を置き、細部の状況について意見をもらい計画の反映に努めている。利用者様や家族様からの意見も反映した介護計画を作成している。	介護計画は、本人・家族の意向、利用者に係る担当職員や主治医等の意見を取入れるとともに、モニタリング結果も踏まえ、ユニット会議で話し合い6か月～1年の期間で計画を作成している。また、本人の状態の変化等により随時見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや個別記録の記入を行い、全職員が記録に関わり、情報を共有し、ケアや経過記録の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じて併設されている小規模多機能の行事に参加させて頂いたり、臨時の受診同行など、出来る限り要望を叶えることが出来るように努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「訪問理美容」や「介護タクシー」などの地域資源を活用して、楽しみがある生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様からの希望をお聞きして、現在ほとんどの方が連携医療機関による往診を受けている。以前からのかかりつけ医を希望される方には受診の際にケース記録のコピーをお渡し、日頃の生活状況や身体状況を主治医に正確に伝え、連携を図っている。	協力医療機関による訪問診療をほぼ全員が2週間に1度受診している。また、介護職場のICT化を進めており、利用者の休眠中に、体動、心拍、呼吸、離床を一度に計測できるシステムを導入して、利用者の安全管理や健康管理の他、受診時の医療機関との連携等に活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノート等にて利用者様の心身の状態や情報、気づきを共有している。週1回に訪問看護ステーションの看護師と医療連携を行い、利用者様の状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時のカンファレンス等で情報共有に努めている。また、主治医とMSWとの面談や電話での連携を十分に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでは家である事を基本に、利用者様、家族様の自己決定を重要視した看取りの支援をさせて頂くように努めている。要望があれば家族様へ説明を十分に行い、看取りの支援体制を整えている。今まで数名の方をお看取りしている。	重篤化した場合や終末期については、利用契約時に本人・家族に重要事項説明書の中で看取り方針を説明している。各ユニットには看護師資格のある職員もおり、主治医と連携して看取りもしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時における対応は、職員へ細かく周知しており、内部研修においても、応急処置や初期対応などを学ぶ機会を設けて実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(3月と9月)に日中、夜間を想定した避難訓練を行い、利用者様の安全な避難方法を確認している。職員の防災についての意識を高めるため、年に1回、災害対策の研修を設けている。	火災や地震等の災害を想定して、年2回避難訓練等を行っている。また、年1回事業所の図面や配置図を見ながら職員研修を実施している。若干の水、インスタント食品も備蓄している。	災害時には、避難した利用者の見守りなど地域住民の協力がいただけるような働きかけを期待したい。

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩として、声掛け、対応を行っているが、基本的にはプライバシーを損ねるような対応はしないようにしている。個人情報、写真等の取り扱いについての同意書を契約時に頂いている。	利用者の呼び方は、本人に確認してさん付で呼ぶようにしている。他の利用者に聞こえないよう小声でトイレ誘導をしたり、希望に応じて入浴時の同性介助を行うなど、本人の要望やプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、対応に注意し、本人の希望で自己決定に結び付けている。その日のお洋服を選べる利用者様には選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールをこなすのではなく、その日、その時の利用者様の状況に合わせて、変更、方向転換をして出来る限りの訴えや要望を最優先することを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、おしゃれが出来るように、個人を尊重出来るような支援を行っている。お化粧を希望される方には家族様に用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接されるサービス付き高齢者住宅の厨房で作られている。栄養士と相談し嗜好調査を行いながら季節に合わせたメニューを提供している。月に2回ほど利用者様と手作りおやつのお会を設けている。	ご飯と朝の味噌汁以外は、隣接のサービス付き高齢者住宅の厨房で作られている。おやつは、利用者のリクエストも取り入れ、たこ焼きや饅頭、ケーキなどを一緒に作ったり、大型スーパーから調達したティラミス等珍しい物も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員一緒に食事開始ではなく、介助に時間がかかる重度の方には食事開始の時間を繰り下げたりと利用者様のタイミングを考えながら提供している。状態に合わせて、形態も変えつつ食事が摂れない際にはお好きな補食の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台まで誘導し、その方の口腔状態に応じた支援を行っている。座席で済まされるのではなく、可能な限り洗面台までお連れすることで生活のメリハリが確保出来るように努めている。		

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が行えるように支援し、利用者様それぞれの排泄感覚の記録を取り、把握し、声掛け、誘導を行っている。オムツやパッドを適切に使って利用者様の状態に合わせた排泄を努めている。	利用者の排泄パターンを把握しており、早めに誘導して全員がトイレでの排泄が出来るよう支援している。適切な誘導により、リハビリパンツから布パンツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の便秘の原因や及ぼす影響を理解しながらも、毎日の体操を取り入れ、身体を動かして頂いている。希望する方には個人購入でヨーグルトや乳酸菌飲料の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様がそれぞれの希望に合わせて実施している。体調が優れない時や拒否がある時は、時間や日にちを調整して実施している。お好きな入浴剤を使用したり、入浴後にお好きな飲み物の提供をしている。	入浴は週2～3回、希望の時間に合わせ支援している。柚子湯等季節感を感じられるお風呂や、好みの入浴剤を利用者に選んでもらうなど、入浴を楽しんでもらう工夫をしている。入浴後は、マッサージチェアを利用しリラックスすることもできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の個室や共有スペースにマッサージチェアで自由に過ごして頂きながら夜間は個室の室温、湿度を調整し、入眠状態を確認しながら安心して静養が行えるように支援している。自宅で使用していた毛布や枕も使用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士、連携を図りながら処方されている薬について十分理解できるように努めている。病状の変化については家族様や主治医と相談しながら服薬調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ユニットではDVDプレイヤーやタブレットで、昔懐かしい曲が流れており、楽しく落ち着ける環境を作っている。その人がそれまでの生活や力に応じた役割を持って頂き、なるべく個々の希望に沿った気分転換に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、感染対策を行いながら、出来る限り、利用者様の希望に合わせて生活歴や趣味、嗜好に沿った外出を行っている。気候の良い日はテラスで日向ぼっこやお茶のみをして気分転換を図って頂いている。	コロナ禍ではあるが、利用者は、感染対策を行い、お寺や公園等に少人数で外出し、季節感を楽しんでいる。また、混雑を避けながらコンビニでの買物や事業所周辺の散歩等を行い気分転換を図っている。	

共生家みずほのグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、家族様の意見を尊重しながらお財布の所持をして頂いている方もいる。管理には厳しく紛失の可能性のある方にはご説明をしたうえで金庫にお預かりしており、支出報告書を家族様にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で家族様との電話を希望される利用者様もあり、いつでも使用して頂けるよう、支援を行っている。またZOOMでの面会や毎月の様子を写真付きのお手紙で家族様宛てに郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも快適に過ごして頂けるよう、環境整備を行い、清潔を心がけている。室温、湿度にも配慮しながら、各ユニットにDVDレコーダーを設置し、好きな歌番組を見ながら一緒に歌い楽しんでいる。感染予防のため、手洗い、消毒、次亜塩素酸空間除菌脱臭機の活用を行っている。	南向きの明るく暖かい共有空間で、利用者はテーブルで談笑したり、新聞を読んだり思い思いの時間を過ごしている。カラオケやテレビ番組を楽しむこともできる。タブレットも配備されており、利用者の興味や話題に合わせて検索するなど活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体的な事も含め、なるべくその人の心地よい場所になれるように、日々工夫している。自席も馴染みの方と近くなるように配慮している。椅子だけではなくソファに座って頂いたりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具、思い出の写真やぬいぐるみを飾って頂き、ご自宅にいる時と少しでも同じ環境づくりに努めている。利用者様の状態に合わせて家具の配置も工夫している。	備付のベッド、ロッカー、洗面台、エアコン・カーテン以外は、利用者が家族と相談して、家具や衣装ケース、仏壇等を自由に持込んでいる。思い出の写真やぬいぐるみが飾られ居心地よく過ごせるよう配慮している。部屋の清掃も行き届き清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事を理解しながら、安全な環境づくり、出来る事は行って頂けるように、見守りのある環境の中で、日々の生活が送れるように支援している。		